

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 4 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 29 日 (2007.3.29)

【公開番号】特開 2002-69669 (P2002-69669A)
 【公開日】平成 14 年 3 月 8 日 (2002.3.8)
 【出願番号】特願 2000-269135 (P2000-269135)
 【国際特許分類】

C 2 3 C 28/00 (2006.01)

B 0 5 D 7/14 (2006.01)

B 3 2 B 15/08 (2006.01)

【F I】

C 2 3 C 28/00 Z

B 0 5 D 7/14 1 0 1 Z

B 3 2 B 15/08 G

B 3 2 B 15/08 N

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 2 月 7 日 (2007.2.7)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アルミニウム又はアルミニウム合金からなるアルミニウム材の表面に形成された粗面化表面と、最外層を形成する塗膜層を有する表面処理アルミニウム材であり、粗面化表面の表面粗さ R_z が表面処理アルミニウム材の素地のビッカース硬さ HV に応じた値を有すると共に、塗膜層の鉛筆硬度が 6 H 以上であって、
上記粗面化表面の表面粗さ R_z は、表面処理アルミニウム材の素地が 1 種類のアルミニウム材で構成されている場合には、このアルミニウム材の粗面化表面の表面粗さ R_z が下記の関係式

$$R_z \leq 1.8 \times 10^4 / HV^2$$

を満足し、また、表面処理アルミニウム材の素地が 2 種以上のアルミニウム材からなる素地構成材で構成されている場合には、この素地の粗面化表面の表面粗さ R_z が下記の関係式

$$R_z \leq 1.8 \times 10^4 / (HV_n)^2$$

(但し、 HV_n は素地を構成する 2 種以上の素地構成材のうちでビッカース硬さの値が最小となる素地構成材のビッカース硬さを示す。)
を満足する

ことを特徴とする表面処理アルミニウム材。

【請求項 2】

粗面化表面が形成されたアルミニウム材の表面に塗膜層を設けるのに先駆けて、このアルミニウム材の表面に下地処理として化成処理により形成された化成皮膜層が設けられている請求項 1 に記載の表面処理アルミニウム材。

【請求項 3】

アルミニウム又はアルミニウム合金からなるアルミニウム材の表面に予め求められた表面処理アルミニウム材の素地のビッカース硬さ HV に応じて決められた表面粗さ R_z の粗面化表面を形成し、次いでこの粗面化表面が形成されたアルミニウム材の表面に最外層と

して塗膜層を設け、塗膜層の鉛筆硬度が 6 H 以上である表面処理アルミニウム材を製造するに際し、

上記粗面化表面の表面粗さ R_z は、表面処理アルミニウム材の素地が 1 種類のアルミニウム材で構成されている場合には、このアルミニウム材の粗面化表面の表面粗さ R_z が下記の関係式

$$R_z = 1.8 \times 10^4 / HV^2$$

を満足し、また、表面処理アルミニウム材の素地が 2 種以上のアルミニウム材からなる素地構成材で構成されている場合には、この素地の粗面化表面の表面粗さ R_z が下記の関係式

$$R_z = 1.8 \times 10^4 / (HV_n)^2$$

(但し、 HV_n は素地を構成する 2 種以上の素地構成材のうちでビッカース硬さの値が最小となる素地構成材のビッカース硬さを示す。)

を満足する

ことを特徴とする表面処理アルミニウム材の製造方法。

【請求項 4】

表面処理アルミニウム材の素地のビッカース硬さ HV は、粗面化表面及び塗膜層を有する表面処理アルミニウム材の試作品を形成して予め測定される請求項 3 に記載の表面処理アルミニウム材の製造方法。